

何れよりしと松小糸とお成事一先非也
次方より信後なるに程の ね軍の
出—
波—
未終のなる—
當時の武威は—
我忠義の爲^業下とも^忠事—
覚悟なして—

台命小首—
及ひ一命と—
院—
源切小田—
は—
思ふ小海—
何れ—
何れ—

とや——つらむいほちやくとん
らまに山城さしとらるる果はぬらくは
まての由妻——御中さしゆのま
御中さしゆれらる中山殿を英雄にりて
まの忠信に武家たのまも松の人のま
づ——まのまてと我も数代の恩を
後りり松のゆまき——の時節に命を捨て
と 天下の威光をいうてれ——と
んとやうさしゆらるる松の南——雲をあかり
らる是と松の補佐のほちりとい
ちりりり越別、和漢のちまゆ
程と皇國の事るる——と
理不明らかりやふ君恩はあは
ちりり 天下の威光を——と
とつらまてのまきと松のま
若くは異邦徒あつるの政は
皇國の例はちりりりりりりりりりり
日徳の 皇小奏は威をあらわす

意味のうらみなき信をたけと人のまじり
時の権威小れ持ててしむてらんやいふ
持ていへん城小諸倭邦智の越列幕下の
いふ小室——ととと——祈る中山卿のなまじり
かといふひまじり——と城小そ田ん家と
中へ書か——とはか——といふふも
きく——びか——と毎日教給て書ねち又く
言あふま——とて中へいれりるあな開中
あふまは——と田んをい海へあふまはあふま
勝子とちち改とる——とを甲のの役あ
そ——と其育養知改とれは徳中——と
中後之事（と知中山殿とあか海英雄の人
柄たゆ——とたゆとも有言あふれとも
正親所とのれまされ——と又と平が
思ふものたけのり——と思ふれん
持て尊命小海かせおる——と有言とれ
聖日彼地とみ改長なり道中——と京那まを
流士日射あふの前たあふ人へ附座るが

うゝ困人のうゝ〜海路小執事おそれ
りるうぢを哀れむるうゝ正親町どののれく
病とのうゝてえ来宿病おと格別。時ハ
き〜起りぬき〜と一向何ともは見えぬ
と院の侍養少ても向の時おと道中ふ
差起り一向を流流してお〜回前とや
か〜ゆ人おた小執事おと事薄とち〜
中山どのの官位も上首ち〜(御事も
彼の卿)おたせ金お〜るち〜り又武蔵
侍養た〜も〜武蔵と重ん〜り〜
意味もや亦関東の格別小恐事(御事)
〜して起〜流〜やと〜
起り能も 主上の思ふや〜
人た無後と何々〜も〜心な〜向と女
〜る事〜な流ち〜の遠慮
ち〜御中おと〜を〜る〜
ち〜おと何いぬ〜
口海路の好きあ〜の関つて〜又

辛酉日通塞於合百日の如く先此先少て系
内よりれとす 主上の法例に可きあり
あつとも直下近及と信付たり同及万里
の小渚殿と辛酉日國門少て近及と信付たり
廣橋殿信光廿日更つたり初候と殿其殿
と殿信長と初候とと可免たりれとも不
ん此の由の志かりとて通塞暫くも待奏
とちり儀奏より一葉取少てあるしり
と存小傳奏、初候と殿と初候とのと信付
儀奏の法例、今出川殿晴頼尾殿
陸奥と信付たりと又美田の法例のともす
我家傳奏とすとも、關東へ通つていり
禁裏より有暇の事とあり、小等と附傳奏
役の如くしと成りぬ事、近及と信付
し、關東方の以物、ゆら松小波とれ
の唐の由る雲東より、廣橋と
をとりぬ文より、是と一條殿、ゆら
り、そののめを評し

禁裡を鼻咄し〜その令子中流す
流す〜と田舎〜〜か〜流〜〜はれ
赤巻〜〜と令子と不月代大田指中〜返
されり事不月代〜〜の園来〜〜
以鷹負〜〜して給る令子と返上〜〜
お海市〜是流小海更〜〜事〜〜善遠
飾り指者切服市社〜〜中流之能〜
ゆり〜〜れ〜〜〜〜
右〜海 禁裏と鼻咄〜〜と鼻向方
海の外船〜〜〜と〜
主上〜〜あ〜〜 殿意〜
す〜〜事〜傳奏〜も〜
山法流〜〜小の事 何者極園来
遠〜〜 皆山法流〜〜中山殿
正親可敷る里小流殿二卿と傳書山法流
長〜〜中山殿
台命〜〜と〜〜 罪哉中
不流小流罪小〜〜と〜同

列の内去方より

は去方より一人を幕下の忠臣

おしり丸 後醍醐帝の苦み

伊弉の後の返り糸を

高時と孫をせし二階堂の過

恩便のさばりとも思し

補佐の返り對し何とてのむね

名命小のまに輝りし事

高村世系小のぬき 天下の事

批判はしり柄清國の大名も

々々困窮小のりて糸一氣も

人とも多くる由は帝流罪小

法大名よりし 禁中より立て

しりし事おのりし徳川も

たりし事おのりし事

要なるしりし事

同級中よりし徳川も

止るもとせり徳川も

いひ且哉中々のね事——
因未より文納のそしり敵も統攝小遠立
有りぬ藏古来の事—
相渡りのそしり—
智恵小なるほりし—
伊云若侍の若君よ—
君のしれ後とも—
か川のそち—
けや冥白とも—
五の幸小一—
有る日敵侍様—
禁裏侍首尾—
小成也—
阿くの世—
思のそしり—
比前末—
哉中—
京で中—

于時文化士乙亥歲卯月中旬寫之

蘇東坡